
鬼は鬼でも [銀魂]

昴星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼は鬼でも「銀魂」

【Nコード】

N5284D

【作者名】

昴星

【あらすじ】

真選組、隊士である『陽子』。ある日、土方に対する認識が変化する。

「もうすぐかな」

昼間だというのに、妙に薄暗い廊下を歩きながら空を見上げる。分厚く天を覆っていた雲は一筋の光も通さない。こぼれ落ちそうなほど膨張した空気が肩にのしかかり、陽子は溜め息をもらした。

行き先は副長の私室。陽子は背を丸めてゆっくりと廊下を進む。女中になかば無理矢理押し付けられた妙に膨らんだ布団を何度も持ち直しながら、空中を睨んだ。

陽子は、今すぐにでも他人にこの任務を譲りたい気分だった。

鬼の副長という名の通り、まさしくその姿は鬼そのもの。あの声、あの目、あの態度、彼の全てが恐怖に直結する。すぐに刀を抜き、己の強さを主張したがっている所を見ると、傲慢な男だともおもえてくる。一体、この一週間で何人、病院送りにしただろう。そんなことを考えながら、私はやっぱり局長についていこう、と小さく心の中で誓う。

「副長、いらつしゃいますか」

先程から、何度か声を掛けるが反応がない。陽子は安心したような苛立ったような、曖昧な表情で辺りを見回した後、障子の隙間に足を滑り込ませた。まっすぐ、部屋の隅へと進む。足で器用ふすまに襖を開け、空っぽの押入れに持っていた物を放り込んだ。さつさと戻る。

刹那、陽子は妙な違和感に襲われた。空からの押入れ。何もない部屋。籠った空気。

彼が仕事に追われている事は知っていた。だが、忙しいにも限度がある。現に先週の木曜日は、確か、非番だったはずだ。未使用に近い私室。もしかしたら、自分は酷い勘違いをしていたのかもしれない。

い。途切れ途切れに呼吸をしながら、陽子は呟いた。

「……………副長って……………」

「なんだ」

返ってくるはずのない声が、陽子の声を捉えた。陽子は丸い背中を震わせ、素早く振り返る。

「っ、いらしたんですか」

「お前、疲れてんのか？」

「……………」

土方は陽子を射るように見下ろす。冷え切った目。二人して顔を合わすことなんて毎日のはずなのに、初めての感覚。陽子は土方から眼を離せなかった。

伝えたい、急にそう思った。それはまるで、自分の発見を誰かに自慢したがっている幼児のよう。陽子はしっかりと土方を視界に入れ、頭を下げた。

「すみませんでした」

「んあ？ 何が」

すみません。また言って、陽子は部屋を後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5284d/>

鬼は鬼でも [銀魂]

2010年10月15日00時51分発行